

古里の水害学び新聞に

1 軽米中生

軽米中（小原亮校長、生徒169人）の1年生は、総合的な学習の時間「ディスカバー軽米学習」にプラス

日報を取り入れた。軽米町の歩みに理解を深めようと、1999年の雪谷川水害と再生可能エネルギーをテ



調べ学習や施設見学で学んだことを発表する生徒

マに調べ学習やフィールドワークに取り組んだ。

一連の学習は昨年12月まで行った。生徒はプラス日報の「調べる」で水害の記事を検索し、自身が生まれる前の被害と復興の歴史を

たどり、施設見学の事前学習を進めた。施設見学後は、学んだことを「クミハン」で個人新聞にまとめた。岩手日報社の出前授業で基本的な操作を学んでから使った。



学習の成果をまとめた新聞

まとめの発表会は12月に開いた。水害について深掘りした班は「自分の命を自分で守る高い意識を一人一人が持つことが大切だ」とまとめた。防災のほか環境、伝統、歴史などそれぞれの切り口で町の良さや課題を示し、より良い町づくりに向けて自分たちにできることを紹介した。

菅原瑛仁さんは「住民と行政が一体となって復興に取り組んでいたことを記事で知り驚いた。防災グッズなどをしっかり備えたい」と思いを強くした。

1学年主任の野里千恵教諭は「新聞は写真も含めて資料が豊富だ。学習を通して古里に関心を持ち、将来は学びを地域のために生かしてほしい」と願う。



水害と復旧まちづくりについて講話する太田代剛支社長

当時の取材記者が講話

岩手日報社による出前授業では、1999年の雪谷川水害取材した太田代剛・一関支社長が当時の写真や動画を使い、被害状況や河川改修、復旧とまちづくりについて講話した。

河川改修は、行政と住民が計画段階から協力したと説明。自然環境を残し、治水、利水に加え住民の憩いの場としての河川空間づくりに取り組んできたことを強調した。

太田代支社長は「みなさんが親になったとき、どうすれば安全な古里を子どもたちに残せるか考えてみてほしい」と呼びかけた。

利用できる機能は？

- ① デジタル版紙面の閲覧
- ② 過去約20年分の記事検索
- ③ 新聞記事を題材にしたワークシート
- ④ 新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている？

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら！

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

